
遊戯王 G X 魔法使いの軌跡

ポッキー・ボーイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 魔法使いの軌跡

【Nコード】

N7725Y

【作者名】

ポッキー・ボーイ

【あらすじ】

遊戯からブラックマジシャンを託された夏稀が
楽しく？愉快に？学園生活を送れるのか。

01話 愉快に楽しく入学試験（前書き）

駄文ですがこれから宜しくお願いします。

01話 愉快に楽しく入学試験

「本当にアカデミアに行くのか？」

「ああ、いつまでもアンタに迷惑かけられない。」

「それなら、これを持って行け。」

「これ…本当にいいのか？」

「ああ、アカデミアがんばれよ。」

.....
.....
.....
.....

デュエルアカデミア、KC社がスポンサーのプロデュエリスト養成学校である

その入学試験が海馬ランドで行われていた

「試験番号01番、1番フィールドにて実技試験を始めます。」

あつ、俺呼ばれた、さつさと終わらせて他の奴らのデュエルでも見よう。

.....
.....
.....

「ようこそなノ〜ネ、ワタクシ〜がアナ〜タの実技担当なノ〜ネ。」

な、なんだコイツ？ブサイ……変な顔をして、しかも喋り方が気持ち悪い

こんな意味不明が先生やっていいのか？

「アナ〜タ、今、とてつもなく失礼な事を考えてなかったデスカ？」

「何！意味不明だけじゃなくテレパシーまで使えるだど？！
さすがデュエルアカデミア、色々な人？がいるぜ。」

しまった、つい本音が

「やっぱり失礼デス〜ノ」

「失礼？あゝ、確かにまだ名前を言ってませんでしたね、失礼しました。」

「ちがうノ〜ネ、名前なんてどうでもいいノ〜ネ
さっきの発言が失礼なノ〜ネ。」

「ノゝネノゝネ、喧しい、イラっとくるんだよ
お前の方が失礼だ、チェンジだチェンジ！」

「ぬぬぬ、私を怒らせたなら、どうなるか、思いしらせてやります。」

「おい、エセ外国語じゃ無くなってるぞ？」

「

ぬぬぬ、ワタクシゝを怒らせたコトゝを後悔させてやりマゝス」

何事も無かったように言い直した！つーかやっぱりキャラ作ってたのか

「ワタクシゝは、クロノスでゝす、よく覚えておきなさい。」

「俺の名前は、鷹茂^{たかしげ} 夏稀^{なつき}だ、お前の名前を覚える気は無いから
俺の名前を覚えなくても良い、と言っより覚えるな。」

「とことん、ワタクシゝを馬鹿^{タイガーホース}にしゝテ
スクラップにしてやりまゝス、覚悟しなさい」

「「デュエル」」

「ワタクシゝのターン、ドロニーヨ。」
これは良い手札なのゝネ

「トロイホースを召喚、さらに魔法カード、二重召喚を発動！
トロイホースを生贄に古代の機械巨人を召喚するゝノ」

【効果モンスター】

星8 / 地属性 / 機械族 / 攻3000 / 守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。」

「あゝあ、あの一番可哀想に……」「終わったなこりゃ」

観客は何騒いでるんだ？ただの機械が一体だろ？

「ワタ シはさらに、一枚セットして、エンドなのゝネ」

念のためゝに聖なるバリア ミラーフォースを伏せておくのゝネ

「俺のターン、ドロー」

すげえ、手札が神だ！これなら1キル行けるぜ。

「何か良いカードでも引けましゝタか？」

何をしようがこの陣形は崩せないノゝネ

「まあな、このターンでお前を倒す！

魔法カード黒魔術のカーテンを発動！ライフを半分払い自分のデッキから

「ブラック・マジシャン」を1体特殊召喚する。」

【通常魔法】

このカードを発動する場合、

そのターン他のモンスターを召喚・反転召喚・特殊召喚することができない。

ライフポイントを半分払い、

自分のデッキから「ブラック・マジシャン」を1体特殊召喚する。】

「ブラック・マジシャン！なんでアナタがそんなカードを？」

「これはな、遊戯さんに託されたカードだ。」

「あのデュエルキングに託されたナウンで、アナタは何者です？」

「ただの一匹狼さ、千本ナイフと黒・魔・道ブラックマジックを発動！
アンタのフィールドを全滅させる。」

「あわわ、ワタクシの古代の機械巨人と聖なるバリア ミラーフ
オースがあ」

「さらに、友情YU・JYOを発動！
お前が握手に応じたらお互いのライフポイントを合計して半分にする。」

「そんなの、応じる訳無いのネ」

「残念だが俺の手札に結束UNITYが有るから強制になる。」

お互いに近づき握手をする

「ほら先生、生徒との握手ですよ、もつと熱血教師っぽく。」

ポキユ「ぎゃああああああああああ」

あらら、ぐ・う・ぜ・ん先生の間接が外れて（はずして）しまった、申し訳ない…

「何するのゝね、こんなの友情でもYU・JYOでも無いのゝね」

「やだなあぐ・う・ぜ・んですよ、ぐ・う・ぜ・ん。」

ちなみに、これでお互いのライフは3000です。

さらにBMに魔術の呪文書を装備、これで攻撃力が700上がり3200になる。

とどめだ、ブラックマジック！」

クロノスLPO

「覚えておくノーネ。」

負け犬様が何を言う

さてと、他の奴のでも見に行きますか。

ちなみに、その後、クロノスは名誉挽回を狙い
2番に挑んだが、破壊輪で古代の機械巨人を破壊され敗北
さらに、遅刻してきたHERO使いにも負けていた

そして俺はオシリスレッドになった……何故だ？皆目見当がつかん

01話 愉快に楽しく入学試験（後書き）

皆様お気づきでしょうか

夏稀の手札が全部魔法！

それは何故か？

私の文才が無いからです。

もう眠いんでプロフィールは明日ってもう今日か

プロフィール（前書き）

題名のまんまです。

プロフィール

鷹茂 たかしげ なつき
夏稀

・家族は4人家族で父、母、姉、がいるが家族ぐるみの虐待を受けており

家出をして、路頭を彷徨っている時、遊戯に出会い一緒に旅をした

・遊戯には絶対の信頼を寄せている。

しかし、過去が過去のため、普段は一人にいる

・使用デッキが、ブラマジデッキとエンディミオンデッキ

・精霊は、マジックリボ― オリカ

【星1 魔法使い族 光属性

デッキから魔法カードを除外し、その効果を得る

この効果は相手ターンでも使えるが

デュエル中に1回しか使えない】

プロフィール（後書き）

もう今日だったので、更新しました。

ヒロイン未定なので、原キャラ、オリキャラ、タッグフオースキャラで要望があつたら言ってください。

では…zzzz

02話 VS十代前編（前書き）

恒例のデュエルです。
では、とっぞ。

02話 VS十代前編

入学試験後、合格通知が届き、何故かオシリスレッドに……

しかも、入学式で校長先生の長~~~~いお話を聞かされ、さらに寮に行けば

オンボロな寮とニヤーニヤーうるさい先生、悪夢だ！

「私がレッド寮の寮長の大徳寺ですニヤー、

レッドだからって挫けず頑張ってイエローを目指して欲しいニヤー
何か質問が有るかニヤー？」

「ニヤーニヤー五月蠅いです。」

「何も無いみたいだから、部屋割りを発表するニヤー。」

どうして、ここの先生は何事も無かったように進めるんだ？

「.....」

.....
13号室、遊城十代、丸藤翔、鷹茂夏稀、
14号室、.....」

えつと…確か遊城十代がクロノスを倒したHERO使いで丸藤翔がロイドだったかな？

などと考えていると二人が話しかけてきた

「鷹茂で合ってるよな？俺は遊城十代、十代って呼んでくれ同じ部屋だろ、これから宜しくな。」

「夏稀でいい、宜しく。」

「僕は丸藤翔、宜しくね。」

3人で話をしながら部屋に向かう

「ドキドキするなどんな部屋だろう。」

「レッドだから、ロクなもんじゃ無いだろうな。」

部屋に入ると狭い部屋で机が一個、二段ベッドが一つ、といった構造だった

「ベッドが2個か、となると一人が下で寝るのか。」

誰が下で寝るか話合っていると、ベッドの上から巨大コアラが現れた

「3人じゃ無いんだな、僕も居るから4人なんだな」

「十代大変だ！人の言葉を喋る巨大コアラが現れた。」

「失礼なんだな、ちゃんとこの生徒なんだな。」

凄いな、コアラでも入学できるのか

「3人+1匹か、じゃあ、1人+1匹が下で寝るのか……狭いな。」

「僕は、前田隼人なんだな、コアラじゃ無いんだな、あと僕が下なのを確定しないで欲しいんだな。」

「隼人君、それは自分をコアラと認めてるっスよ」

「違うんだな、違うんだな」

「しょうが無い、ジャンケンで決めるぞ、コアラはジャンケン分かるか？」

「夏稀君もいい加減にしてあげて欲しいっス」

そしてジャンケンの結果は俺と十代が勝ち、俺が上のベッド、十代が下のベッドになった

「なあなあデュエルしようぜ？デュエル！」

「どうせ断つても諦め無いんだろ？いいぜ相手になってやる。」

「『デュエル』」

「先行は貰うぞ、ドロー、熟練の黒魔術師を攻撃表示で召喚。」

【効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻1900 / 守1700

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

自分または相手が魔法カードを発動する度に、

このカードに魔力カウンターを1つ置く（最大3つまで）。

魔力カウンターが3つ乗っているこのカードをリリースする事で、

自分の手札・デッキ・墓地から「ブラック・マジシャン」1体の特

殊召喚する。】

「さらに魔力掌握を発動し熟練の黒魔術師にカウンターが二個乗り
デッキから魔力掌握を手札に加える。」

【通常魔法

フィールド上に表側表示で存在する魔力カウンターを

乗せる事ができるカード1枚に魔力カウンターを1つ置く。

その後、自分のデッキから「魔力掌握」1枚を手札に加える事がで
きる。

「魔力掌握」は1ターンに1枚しか発動できない。】

「そして打ち出の小槌を発動し手札を二枚入れ替える。」

【通常魔法

自分の手札を任意の枚数選択し、デッキに戻しシャッフルする。

その後、デッキに加えた枚数分のカードをドローする。」

「これでカウンターが三つになった熟練の黒魔術師を生贄にデッキからブラック・マジシャンを特殊召喚。」

【通常モンスター

星7 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2500 / 守2100】

「来たか、ブラック・マジシャン、ワクワクするぜ。」

「カードを1枚伏せ、ターンエンド。」

「俺のターン、ドロー、手札から融合を発動！手札からバーストレディとフェザーマンを融合、

来いマイフェイバリットカード、E・HEROフレイムウイングマン」

【融合モンスター・効果

星6 / 風属性 / 戦士族 / 攻2100 / 守1200

「E・HERO フェザーマン」+「E・HERO バーストレディ」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。」

「残念だがブラック・マジシャンより攻撃力は低いぞ。」

「慌てるなよ、ヒーローには、ヒーローの戦う場所が有るんだ、
摩天楼 スカイスクレイパーを発動！」

【フィールド魔法

「E・HERO」と名のつくモンスターが攻撃する時、攻撃モンスターの攻撃力が攻撃対象モンスター

の攻撃力よりも低い場合、攻撃モンスターの攻撃力はダメージ計算時のみ1000ポイントアップする。」

「さあ、デュエルを楽しもうぜ。」

02話 VS十代前編（後書き）

ビミョーな切り方ですいません、
時間が無い物で……

03話 VS十代中編(前書き)

短いし切り方がビミョーです、すみません。

03話 VS 十代中編

夏稀 LP4000

手札3 伏せカード1 BM一体

十代 LP4000

手札2 スカイスクレイパー フレイムウイングマン一体

「さあ行くぜ、フレイムウイングマンで攻撃！スカイスクレイパーシュート」

「血迷ったか？攻撃力が400足りないぜ。」

「そんな事は百も承知だぜ、スカイスクレイパーの効果でフレイムウイングマンの攻撃力が1000アップするぜ。」

1000アップだと？！チート効果も大概にしろ
しかし、俺はその幻想を^{チート}ブチ壊す！

「即効魔法発動！デイメンション・マジック！BMをリリースしフレイムウイングマンを破壊！」

【速攻魔法

自分フィールド上に魔法使い族モンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリースし、手札から魔法使い族モンスター1体を特殊召喚する。

その後、フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する事ができる。】

「俺のフレイムウイングマンが」

「さらに、手札からブラック・マジシャン・ガールを特殊召喚！」

【効果モンスター】

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2000 / 守1700

お互いの墓地に存在する「ブラック・マジシャン」

「マジシャン・オブ・ブラックカオス」1体につき、

このカードの攻撃力は300ポイントアップする。

「げげ…さらに来るのか。」

誰だ？今その魔法の方がチートだろ！とか言った奴は？

「凄いッス、BMGッス、感激ッス。」

「って、翔！いつからそこに？」

「何言ってるんスカBMG有る所にこの翔有リッスよ。」

「……………続ける十代。」

「手札から、融合回収を発動、効果で墓地のバーストレディと融合を手札に加えて

融合発動、ランパートガンナーを守備表示で融合召喚！」

「融合モンスター・効果

星6 / 地属性 / 戦士族 / 攻2000 / 守2500

「E・HERO クレイマン」+「E・HERO バーストレディ」

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが表側守備表示の場合、守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃することができる。

その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半分になる。」

「ターンエンド」

「俺のターンドロ」

ちっ、何もできねえな

「カードを伏せターンエンド。」

「俺のターンドロ、強欲な壺を発動！」

ここで強欲か、運がいい

「そして俺は羽クリボーを守備表示で召喚しカードを一枚伏せる。」

なんでコイツが遊戯さんの羽クリボーを持ってるんだ

04話 VS十代後編(前書き)

更新遅れました…

でわどろぞ

04話 VS 十代後編

夏稀 LP 4000

BMG 伏せカード1 手札2

十代 LP 4000

ランパードガンナー、羽クリ スカイスクレイパー

伏せ1 手札0

「十代、ちょっと良いか？」

「ん？何だ？」

「どうして、羽クリボーを持っている？」

「何って、入学試験の時に、貰ったんだ。」

「誰に？」

「顔を良く見てなかったから覚えてないな。」

ドンマイ十代、君が会えたのは君の憧れるデュエルキングだ。

「つまらん事を聞いてすまない続けてくれ。」

「変な夏稀…、ランパートガンナーを攻撃表示にし攻撃力が1000上がった

ランパートガンナーでブラックマジシャンガールを攻撃！」

「無駄だ、畏発動！和睦の使者、ダメージを0にし破壊を無効！」

「また防がれたぜ…ターンエンド。」

「俺のターンドロ…………BMGでランパートに攻撃！」

「畏発動、攻撃の無力化！」

「ちっ、ターンエンド。」

「俺のターンドロ………魔法カード天よりの宝札、お互いは手札が6枚になるまでドロする。」

またドロカードか、どんな運してるんだ？

「ワイルドマンを召喚し、攻撃力が2500になったワイルドマン

でB M Gに攻撃!!」

「まだだ、手札のパワーフェイスマジシャンを捨て効果発動!墓地の魔法カード×100ポイント

自分の魔法使い族の攻撃力を上げる!!向かい撃てブラックバーニング!!」

B M G 攻 2 3 0 0 2 6 0 0

B M Gのメラゾーマ?がワイルドマンを黒焦げになって消えていった……

十代LP3900

「なら攻撃力が1000上がった
ランパートガンナーでブラックマジシャンガールを攻撃!」

「まだだ、まだ終わらんよ、手札のディフェンドフェイスマジシャンを捨てバトルフェイズ
を終了させる。」

「くっ、カードを一枚伏せターンエンド。」

「ドロー、来い!マジックリボー。」

魔法使いの格好をしたクリボーが現れる。あれ?今こっち見てウィンクしたような…

「お前もクリボー持ってるのか」

「ああ、俺の相棒だよ。大切な相棒だ！

続いて死者蘇生を発動蘇れブラックマジシャン！

ブラックマジシャンでランパートガンナーを攻撃！ブラックマジック！」

「悪いがこの勝負貰ったぜ、速効魔法、進化する翼を発動！手札を2枚捨て

羽クリボーをLV10に進化する。」

【速効魔法

自分フィールド上に存在する「ハネクリボー」1体と手札2枚を墓地に送る。

「ハネクリボー　LV10」1体を手札またはデッキから特殊召喚する。」

【効果モンスター

星10 / 光属性 / 天使族 / 攻　300 / 守　200

このカードは通常召喚できない。

このカードは「進化する翼」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを生け贄に捧げる事で、

相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊し、

破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

この効果は相手バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。】

「ハネクリボー　LV10を生贄に捧げ相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊し、

破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。」

B M 2 5 0 0 + B M G 2 0 0 0 + マジクリ 1 0 0 0 = 5 5 0 0

「甘い、相棒^{マジクリ}の効果発動、デッキから魔法カードを除外しその効果を得る、

俺はデッキから痛魂の呪術を選択。」

【速攻魔法

相手が自分にダメージを与えるカードの効果が発動した時に発動する事ができる。

自分の代わりに、相手はその効果ダメージを受ける。】

「という事はまさか……」

「そのまさかだ、メイキングマジック!!」

十代 L P O

「チクシヨ―、あと少しだったのにな
でも楽しかったぜ、ガッチャ」

「ああ、楽しかったぜ、つとそろそろ夜か、帰るか。」

「じゃあ帰ったらまたデュエルしようぜ。」

「はいはい……」

04話 VS十代後編（後書き）

オリカ

パワーフェイスマジシャン

光属性・魔法使い族・星3・攻500・守500

効果、墓地の魔法カード×100ポイント

自分の魔法使い族の攻撃力を上げる

ディフェンドフェイスマジシャン

光属性・魔法使い族・星3・攻500・守500

効果、手札からこのカードを捨てバトルフェイズを終了させる

05話 VSカイザー（前書き）

万丈目、明日香戦は飛ばしました、
ではどうぞ。

05話 VSカイザー

十代戦の後色んな事があった、

翔がラブレターを勘違いしたり、

翔が覗きをしたり、

翔が捕まったり、

翔が縛られたり、

翔の所為で明日香とか言うブルー女子とデュエルさせられたり……
勝ったけど、

万丈目とか言う奴に呼び出されてデュエルさせられたり……勝った
けど、

まあ、あんなこんなで今日は月一テストの日だったりする、

十代の相手は万丈目だが、俺は翔の兄上ことカイザーとだ……Wh
y?

「えっと…先輩は何故俺となんですか？」

「伝説のデュエリストからカードを受け継いだ実力を見てみたくな、校長に言つて

特別にデュエルする事になった。」

確かこの人学園で一番だろ、弟とはえらい違いだな

兄弟片方しっかり片方ちゃんぽらん説は本当だったのか！

「では始めようか。」

「「デュエル」」

「先行は譲ろう。」

「ではお言葉に甘えて、ドロ―、
サイレントマジシャンＬＶ４を召喚。」

【効果モンスター】

星４／光属性／魔法使い族／攻１０００／守１０００

相手がカードをドロ―する度に、

このカードに魔力カウンターを１つ置く（最大５つまで）。

このカードに乗っている魔力カウンター１つにつき、

このカードの攻撃力は５００ポイントアップする。

このカードに乗っている魔力カウンターが５つになった

次の自分ターンのスタンバイフェイズ時、

フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送る事で、

自分の手札またはデッキから

「サイレント・マジシャン　ＬＶ８」１体を特殊召喚する。」

「さらにフィールド魔法、魔法都市エンディミオンを発動！」

【フィールド魔法】

自分または相手が魔法カードを発動する度に、

このカードに魔力カウンターを１つ置く。

魔力カウンターが乗っているカードが破壊された場合、

破壊されたカードに乗っていた魔力カウンターと

同じ数の魔力カウンターをこのカードに置く。

１ターンに１度、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを

取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、

代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができる。

このカードが破壊される場合、代わりに

このカードに乗っている魔力カウンターを１つ取り除く事ができる。

」

「お前、それはB Mデッキじゃ無いな。」

あれ、もう気づいた？

「そうですね、しかしこつちが本気のデッキだ！魔力掌握発動！」

「サイレントマジシャンLV4にカウンターを一個のせ、

魔法を発動した事で魔法都市にもカウンターが乗る、

そしてデッキから魔力掌握を手札に加える。

カードを二枚伏せターンエンド。」

「俺のターンドロ。」

「その時サイレントマジシャンLV4のカウンターが2個になり
攻撃力が2000になる。」

「構わん、サイバードラゴンを特殊召喚し融合呪印生物・光を召喚
！」

【効果モンスター

星3 / 光属性 / 岩石族 / 攻1000 / 守1600

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。

その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならない。

フィールド上のこのカードを含む融合素材モンスターを生け贄に捧
げる事で、

光属性の融合モンスター1体を特殊召喚する。】

「二体を生贄にサイバードラゴンを特殊召喚！」

【融合・効果モンスター

星8 / 光属性 / 機械族 / 攻2800 / 守2100

「サイバー・ドラゴン」+「サイバー・ドラゴン」

このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードは一度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。】

「くられ！エボリューションツインバースト！！」

「防がしてもらうぜ、攻撃の無力化。」

「くっカードを1枚伏せターンエンド。」

「俺のターンドロ、…強欲な壺を発動し2枚ドロ、

そして二枚目の魔力掌握を発動しサイレントマジシャンLV4のカウンターを3個に

そして魔法都市のカウンターが2個になり魔力掌握を手札に加える。」

「さらに、速効魔法手札断札を発動しお互いが手札を二枚捨て二枚ドロする。

これでサイレントマジシャンLV4のカウンターが4個になりサイバーツインを上回った。」

サイマジ攻3000

「サイレントマジシャンLV4でサイバーツインを攻撃！！」

「甘い、リミッター解除を発動！サイバーツインの攻撃力を二倍にする。」

サイバーツイン攻2800 5600

サイマジが無残にも葬り去られた……

「何！？有りか？そんなの。」

夏稀LP1400

「しかし、サイマジのカウンターが魔法都市に乗り8個になり、魔法都市からカウンターを6個取り除き、墓地から神聖魔導王 エンディミオンを特殊召喚する。」

【効果モンスター】

星7 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2700 / 守1700

このカードは自分フィールド上に存在する

「魔法都市エンディミオン」に乗っている魔力カウンターを6つ取り除き、

自分の手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する魔法カード1枚を手札に加える。

1ターンに1度、手札から魔法カード1枚を捨てる事で、フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。」

「墓地からだ……っは！手札断札の時か。」

「さあ第2ラウンド開始だ！」

「エンディミオンが魔法都市の効果で特殊召喚した時、墓地から魔法カードを手札に加える、

俺は墓地から、魔力掌握を手札に加える。

ターンエンドしエンドフェイズ時にサイバーツインは破壊される。

「

「俺のターン、プロトサイバードラゴンを召喚し手札からパワーボンドを発動!!」

場のプロトサイバードラゴンと二対のサイバードラゴンを融合！
いでよサイバーエンドドラゴン!!」

いやいやいや……これは無いっしょ、どんだけ詰め込んでるんだサイバードラゴン

さらにパワーボンドの効果でサイバーエンドドラゴンの攻撃力は倍になる

4500 9000

「いくぞ、サイバーエンドでエンディミオンを攻撃!!
エターナルエヴォリュションバースト!!」

あれ？エース出てきて即退場？これからだってのに……

ぎゃああああエンディミオンがお亡くなりになさった

夏稀LP - 4900

あれ？ライフが4900になってる、おかしいな……

「勝者、丸藤亮。」

おいまだライフ残ってるぞ……あれ何でライフの横に・が付いてる
おかしいな
という事は負け？……それは無いなだって俺のエース出てたもん、
これからじゃん
よし俺のターンドロってソリッドビジョンが消えてる……
ごニョごニョ……………

しばらくお待ちください

っは?! いかんスリップしてた、えっと確かサイバーエンドドラゴンの攻撃を受けて負けたと

「おい大丈夫か? さっきからブツブツいつてるが…」

「大丈夫だ、ちょっと処理落ちしてた。」

「何はともあれ、デュエルしてくれて感謝する。」

「いやいやこちらこそ。」

「また機会があつたら宜しくたのむ」

「ああ、じゃあな」(本音したくない)

.....
.....
.....

結果は変わらずのレッド寮、十代は昇格だが蹴った、翔は知らん

もう二度と奴とやるのは御免だね

05話 VSカイザー（後書き）

感想の制限無しが出来る事を最近知ったので
解除しておきました。

感想、ヒロイン、オリカ、なんでも良いので
書いてくれると嬉しいです。

06話 闇のゲームのバーゲンセール？前編（前書き）

カイザー戦は5話にまとめました。

今回は声の人編ですが声の人は出ません。

オリ？展開です。

06話 闇のゲームのバーゲンセール？前編

「今から怪談しようぜ。」

十代がまた急に言い出した

「言ったな、夜トイレに行けなくなるぞ。」

「何話てるんすか？僕も話に入れて欲しいッス。」

「僕も入れて欲しいんだな。」

「もうこんな時間か、」

「夏稀君怖すぎるっス…」

「時間的に次でラストだな」

最後誰が話すか決めようとしたところ大徳寺も話に入ってきた

「怪談してるのかニヤー、怪談と言えば、廃寮で行方不明者が出るらしいニヤー」

まあ噂なんだけどニヤー邪魔して悪かったニヤー」

そう言うで大徳寺は出て行った、あゝあこんな事言ったら十代が……

「何か面白そうだな、ちよつと言ってみようぜ。」

ほら言いだした

「えゝ嫌っスよ、帰れなくなるっス」

「良いじゃんかよ、ちよつと覗きに行くぐらい。」

「ちよ、ちよつとだけっスよ。」

「行くんならさっさと行こうぜ見つかる厄介だ。」

「じゃあ行くぜ。」

「こりゃ廃寮より洋館だな バイオハザードが起こってそうだ

「何かここ住めそうだな、引っ越すか？」

「いいなそれ、俺もそれ考えてた。」

「僕はやめとく」「きゃあああああああああ」

「「！」」

「悲鳴?!」

「女子の声だったッス。」

「行くぞ。」

「待て、固まったら効率が悪い、俺は1人で二階を探すからお前らは別の所だ。」

「わかった、気をつけろよ。」

中に入ったが気味悪いなマジでゾンビが出てきそうだ

二階は寝室が多いな、一個一個探すのは面倒だな

ここは大広間か広いな……………誰がいる！

こいつは女子か結構可愛いな……………じゃなくてじゃあさっきの悲鳴はこの子か？

とりあえず連絡を………… pipipipi

「もしもし、あつ夏稀君、大変ッス今アニキが明日香さんを救った
め闇のデュエルしてるっス。」

明日香だと！

「じゃあ、さっきの悲鳴は明日香だったのか？」

「そうらしいッス、アニキとデュエルしてる人が言ってたッス」

じゃあこの子は何でここにいる？例の行方不明者って奴か

「わかったすぐそっちに向かう。じゃあな。」

さあ、問題はこの子をどうするかだが

「そこで何をしている…」

急に声が聞こえたのでそっちを向くと、黒フードを被った男がいた

「誰だ？」

「今は私が質問をしているんだ」

「この子をどうした？」

「今は私が質問をしているんだが…まあいいそいつはちょっと見てはいけない物を見てしまったね
少し寝て貰っている。」

「で、俺はどうなるんだ？」

「無論、ここで寝て貰うか、デュエルするかだ。」

「じゃあデュエルだな。」

「ほう、無謀な奴だ、だが嫌いでは無いぞ。」

「じゃあいくぜっ…てデツキ忘れたアアアアア」

くそっ何で忘れてんだ俺のバカ！

「ふはははは、なんとマヌケなデュエリストだ、では寝て貰うぞ！」

やばいやばいK O O Lに、いやC O O Lになれ考える考えるんだ…

………そうだ！

「まあ待て、デッキなら有る、俺はこの子のデッキを使っぜ!」

「良いだろう、命拾いしたな。では」

「デュエル」

夏稀LP4000

? LP4000

さあこの子のデッキはどんなのだ……何だこのモンスター見たことないぞ

「先行は私が貰おう私は魔轟神アシェンヴェイルを召喚!」

【効果モンスター

星4/光属性/悪魔族/攻1600/守1200

このカードが戦闘を行うダメージ計算時に1度だけ、手札を1枚墓地へ送って発動する事ができる。

このカードの攻撃力は、そのダメージ計算時のみ600ポイントアップする。】

魔轟神?聞いたこと無いな

「カードを一枚伏せ、ターンエンド。」

「俺のターンドロ、TG ラッシュ・ライノを攻撃表示で召喚、」

【効果モンスター

星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1600 / 守800

このカードが攻撃する場合、ダメージステップの間このカードの攻撃力は400ポイントアップする。

このカードが破壊され墓地に送られたターンのエンドフェイズ時、自分のデッキから

TG ラッシュ・ライノ以外のTGを手札に加える。」

「TG ラッシュ・ライノで魔轟神アシェンヴェイルを攻撃！
効果で攻撃力が2000になる。」

「ふはは、甘いわ手札の魔轟神ソルキウスを捨て、攻撃力が2200になる。」

「何！うわああああ」

夏稀LP3800

なんだ？ダメージが現実になった……まさか！

「気づいたか、そうこれは闇のゲームだ、負ければ死が待っている。」

なんてこつたい、この寮は闇のゲームのバーゲンセールか？

「カードを1枚伏せ、TG ラッシュ・ライノの効果でTGドリル・フィッシュを手札に加える。

ターンエンド。」

「私のターン、さあ真の恐怖を味あわせてやる。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7725y/>

遊戯王GX 魔法使いの軌跡

2011年11月29日21時52分発行